

「第5回大垣市におけるユニバーサルデザインを生かしたまちづくり研究会」

会 議 録

日時：平成19年12月26日（水）
13：30～15：30
場所：市役所 3階 合同委員会室

次 第

【司会：広瀬政策調整課長】

1. あいさつ【水井企画部長】
2. 大垣市ユニバーサルデザイン推進指針（研究会案）についての意見交換【進行：鈴木座長】
3. その他

配付資料

- 次第
- 大垣市ユニバーサルデザイン推進指針（案）
- 大垣市ユニバーサルデザイン推進指針策定スケジュール（変更後）
- 情報提供
 - ・ユニバーサルデザイン事例の写真
 - ・大垣市社会福祉協議会地域福祉活動計画
「みんなでいいまちをつくろうよ」（概要版）

出 席 者

- 座 長：鈴木 誠 岐阜経済大学経済学部教授・地域連携推進センター長
- 副座長：松本 英三 大垣女子短期大学デザイン美術科学科長・教授
- 委 員：奥田 静子 大垣市連合婦人会副会長
- 小林 修 大垣市青年のつどい協議会会長
- 坂 忠男 特定非営利活動法人大垣まちづくり市民活動支援会議副理事長
- 堀 あゆみ 岐阜経済大学まちなか共同研究室マイスター倶楽部学生副代表

	辻本 周作	終の住まい研究会プラチナプラザ代表
	早崎 正人	大垣市社会福祉協議会事務局長
	吉田みはる	大垣点訳グループ愛盲会副会長
	成瀬 重雄	大垣商工会議所事務局長
	箕浦 之治	大垣市観光協会副会長
	一柳 善郎	公募による市民
	渋谷みゆき	公募による市民
	山崎 幸輝	公募による市民
○事務局：	水井 静雄	大垣市企画部長
	広瀬 幹雄	// 企画部政策調整課長
	寺嶋 太志	// 企画部政策調整課政策調整係長兼広域政策係長
	後藤 威博	// 企画部政策調整課主査
	長澤 由起	// 企画部政策調整課主事
	梅原 慶子	岐阜経済大学研究支援課
	菊本 舞	// 地域連携推進センター・チーフコーディネーター

発 言 録

1. あいさつ

【広瀬企画部政策調整課長】

本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。それでは、只今から、「第5回大垣市におけるユニバーサルデザインを生かしたまちづくり研究会」をはじめさせていただきます。

なお、本日は老人クラブ連合会会長の富田様をはじめ、5名の委員様が、所用のため、ご欠席でございます。

また、前回の研究会を踏まえまして、今後のスケジュールを修正させていただきました。お手元に「大垣市ユニバーサルデザイン推進指針策定スケジュール（変更後）」という資料を配付させていただきましたので、よろしくお願い致します。

はじめに、水井企画部長からごあいさつを申し上げます。

【水井企画部長】

企画部長の水井でございます。本日の研究会の開催に当たりまして、ごあいさつを申し上げます。委員の皆様には、年末の大変ご多忙の中をお集まりいただきまして、厚くお礼申し上げます。

また、前回の研究会では、この研究会としての「ユニバーサルデザイン推進指針（案）」につきまして、それぞれの立場から貴重なご意見を頂戴し、誠にあ

りがとうございました。

本日の研究会につきましても、前回に引き続き、「大垣市ユニバーサルデザイン推進指針（案）」の策定に向けて、積極的な意見交換をお願いしたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

【広瀬企画部政策調整課長】

それでは、次第の「2. 大垣市ユニバーサルデザイン推進指針（研究会案）について意見交換」に移りたいと思います。

ここからの進行は、座長の鈴木様をお願いしたいと存じます。よろしくお願い致します。

2. 大垣市ユニバーサルデザイン推進指針（研究会案）について意見交換

【鈴木座長】

本日の研究会についても、個人情報など非公開とする事案がないことから、大垣市情報公開条例の規定に基づきまして、公開といたします。また、この研究会の会議録も、これまでと同様に、市のホームページと市役所1階の市政情報コーナーにおいて公表されますので、よろしくお願い致します。

なお、本日は、傍聴希望者がいらっしゃいますので、ここで入場していただきます。

《傍聴希望者が入場》

【鈴木座長】

指針（案）につきましても、事前に郵送で配付させていただきました。初めて見る方もおられると思いますが、それぞれのお考えを自由に述べていただきたいと思います。

今後の進め方ですが、前回にいただいた意見と本日の会議でいただく意見をもとに再検討した上で、1月10日（木）の会議の時に指針（案）を皆様にお示しし、また、そこでも意見を交換させていただきたい。

まず、松本副座長から事例写真をご提供いただいたので、その説明をお願いしたい。

！

○情報提供！

・ユニバーサルデザイン事例の写真【松本委員】

事例写真は急いで写してきたものであり、私の目で見ただけのものである。各委員の目でご覧になる感覚は違うかも知れない。ご意見があればいただきたい。

7つの約束ごとに1から7まで番号をつけた。分類してみると、以外に明確にはできなかった。おおざっぱに分けたという感じで捉えていただけ

ればよい。順番を追って説明を加えたい。

<1-1>!

大垣駅の正面の入り口である。下りのエスカレーターがあると体の弱い方には助かる。!

<1-2>

アクアウォークの入り口であるが、最初から階段を設けていない緩い斜面の入り口となっている。

<1-3>

正規のメーカーの道具である。デザイナーは有名な日本の工業デザイナーで、形も非常にきれいである。使って楽しい、持っても置いても楽しい要素があると、子どもも使える。機能だけではなく、デザイン性は商品としての価値を高める。

<1-4>

大活字本シリーズである。大きな文字であり、普通の本として販売された。

<1-5>

名阪近鉄バスのノンステップバスである。

<1-6>

総合的なイメージで捉えた時に、非常に心安らくユニバーサルデザインを取り入れている。安全で心やすらぐという感覚からすると、ベンチ、公衆トイレ、電話ボックス、緑、水門川がある。

<2-1>

フロアの広いトイレが最近の新しい建築物に見られる。赤ちゃんを置くスペース、おしめを交換するスペース、広いスペースでいろいろな方に使っていただけるトイレである。

<2-2>

公園と道路の一体化した複合的な感覚が和やかな感じがするが、車が乗り入れられる。

<3-1>

名古屋市内のエレベーターの押しボタンである。「開く・閉じる」という字があると、とっさにマークが判断できる。「開く・閉じる」の文字盤の文字が非常に大きい。このタイプに出会った例は非常に少ない。

<3-2>

よくある電話機であるが、文字盤が大きい。こちらの方がはるかに使いやすいし、見やすい。

<4-1>

名古屋の地下鉄の出入り口にある点字の案内板であるが、大垣市にもある。

<4-2 a>

大垣市の駅前の案内板である。右上の方にある点字の案内は視覚障がい者にとって使いやすいかどうか。親切にも見えるが、実際の使い

やすさ、用途はどうか。

<4-2b>

一般的な方向指示のマークである。デザインはきれいかもしれないが、デザイナーの立場から見ると疑問がある。

<4-3>

大垣駅の構内にある案内図である。わかりやすいかどうかという以前の問題として、こういった案内図があるということ事態は大変役に立つ。

<5-1a>

大垣駅北口からアクアウォーク付近の写真である。道の整備は割合きれいでさわやかな面があるが、車の乗り入れが可能である点が心配である。

<5-2>

アクアウォークの北側の写真である。車がたくさん走るところの脇に橋がかかっていて、歩道で安心して渡れる。車道の横に歩道があるのが普通だが、それを渡るよりもはるかに安心感・安全感があり、ここまで隔離した歩道というのはこんなに気持ちが良いのかと思う。

<6-1>

自動販売機は全部使いやすいかと言えば微妙な要素が一杯ある。中間的な位置がどうなるのか。名古屋の切符の自販機は割と使いやすい。

<6-2>

水門川の電話ボックスである。

<7-1>

大垣駅構内である。車椅子が通れる幅に設計したものがあ

<7-2>

参考資料だが、名古屋駅の近く、横断歩道の上に自転車が乗っていて、誰も歩けない。こういう市民感覚をまずどうにかしないといけない。

【鈴木座長】

松本先生から、「7つの約束」を共有したいということで、大垣市内の具体的な事例を写真で紹介していただいた。

他にもこういう写真が良いとか、何か良い事例があれば、次回までにご紹介いただきたい。10日にはこういう写真を埋め込んで皆さんにお示ししたい。ご意見をお願いしたい。

【辻本委員】

9ページの5-2のこの橋は最近になって完成された。使い勝手は良いが、見通しが悪い。こういう設備は確かに安全ではあるが、コストがかかるのではないか。行政と一緒にやって見通しやコストについて見ていただきたい。

【堀委員】

大垣駅前にも3-2で示されたタイプの電話ボックスがある。普通の縦長の電話ボックスと立方体に近い電話ボックスが並んだ状態で置かれている。7つの原則のどこにあてはまるかとなると、「公平に！」か「柔軟に！」なるかと思う。携帯電話がかなり普及しているので、公衆電話を使う人がどれくらいいるのかにもよると思うが、そのようなものが駅前にあるということで皆さんにお伝えしたい。

【鈴木座長】

駅前に設置されている電話の縦長い方は、国際電話ではないか。確かに多文化共生社会の中で外国人の人も利用しやすいということにも配慮されている。

【松本委員】

大垣駅前の電話ボックスは、外国人にも使えると言われたが、色がきれいでなかった。

【坂委員】

僕はあまり知らないが、センサーが働いて、エスカレーターが昇りと降りと変化するような所が市内にあるのか。

【鈴木座長】

時間帯によって昇りと降り替わるエスカレーターはある。

【坂委員】

センサー付きのエスカレーターが市内にあると良い。そのような写真があると良い。

1-5のノンステップバスの写真だが、車道から乗ると段差があるように見えるが、車両が歩道と接したところで写真を撮ると低床のノンステップの意味合いが強く見えるのではないか。

2-1のトイレの写真について、手洗い器の下が収納だと車椅子に不都合である。意味がない。手洗い器の底がないものと、フットレストがぶつからない写真があると良い。

【松本委員】

確かにそうである。1-5のノンステップバスは停まっている車などにより、歩道と接していない状態で停車することが多い。

【小林委員】

市内の大型ショッピングモールにある飲み物の自動販売機には、高い位置と低い位置の2段に商品番号を押すボタンがあった。コインの投入口が受け皿になっていて、そこにコインを入れるだけで傾斜によってコインが投入されると

いう自販機があった。便利でやさしい設計だと思った。そういう写真を持参していないのが申しわけないが、分かりやすい資料になるのではないか。

【鈴木座長】

それはどこに使ったら良いか。手軽にコインが投入しやすいということで「手軽に！」が良いであろう。

【箕浦委員】

1-1のエスカレーターについての補足説明だが、ビルの中にエレベーターがあるが、初めての人には分かりにくいいため、両方が利用できる案内表示をするとかなりカバーできる。大垣駅の南口と北口の交通の便を良くする計画が進められているが、アピオビルの正面入口から西の所にエレベーターを設置して足の悪い方でもエレベーターでご利用できる計画がなされていると聞く。

【一柳委員】

サインの問題についてだが、点字と言う形のサインが必要になるのではないかと思う。4-2 aの案内板は小さいからかもしれないが、4-3ならば、点字表記は可能である。

また、やはり英文の表記もあるかと思うが、外国の表記も統一した方が良いのではないか。サインの文字だけではなく絵も国際的なものがあると思う。

【鈴木座長】

ご指摘いただいたようなご意見を出していただき、その中から研究会として市長に指針（案）を提出したい。新しいビルや公共施設に「7つ約束」が取り入れられているので、見つけ出し、指針（案）に反映していただけるとありがたい。

それでは、この資料を使うということできたいと思うが、補足するものについては皆さんの協力をいただき、できればデジカメで写真を撮っていただいて、こちらの方に貸していただけると助かる。

【山崎委員】

確認であるが、資料については、大垣市内のものに限定するのか。

【鈴木座長】

前回も、そのような話し合いがあった。なるべく市民の皆さんが身近な所でユニバーサルデザインとは何だろうと考えられるように、あそこに行けばあるというくらい身近で見てくれて考えられる素材が良いと思う。

大垣市内にあるものを優先したいと思うが、足りないものについては、あるいは非常に先駆的なものについてはやはり市外でも僕は良いと思う。皆さんの考えはどうか。

【坂委員】

できるだけ市内で写真を撮ってみて、それで不足すれば市外でも良いのではないか。

【山崎委員】

インターネットで見た電話ボックスには、傘立てがない。お年寄りが杖を使って入った時に、杖を置く所があればそこに置くが、杖を置く所と、傘を置く所が欲しい。また、鏡がついていると後ろが確認できて良い。大垣市の現状としてはまだまだ足りないところがあるというところだ。

【一柳委員】

これは大垣市のまちづくりに関わる問題なので、できる限り大垣市のものを選び、どうしてもない時は例外的な処置として、市外のものを選ぶ。あくまでひとつのモデルというパターンだという理解をすれば、基本的に大垣市の中で選ぶ。指針（案）はこれからつくるのだから、基本的に最高のレベルになかなか達せられない場合が多い。そういう風に考えれば良いのではないか。

【鈴木座長】

それでは、なるべく大垣市内のもので、これだと思う事例は研究会としてその方が良いのでぜひ見せてほしい。

早崎委員から資料紹介をしていただくが、特に「思いやりのデザイン」についてイメージが浮かぶと思う。民間がやっている事例として参考になると思います。

・大垣市社会福祉協議会地域福祉活動計画

「みんなでいいまちをつくろうよ」（概要版）【早崎委員】

地域の方々やボランティア・NPOの方々と協働して展開する事業を重点目標として、6つほどあげている。ユニバーサルデザインの関係でお役に立てればと思っている。

「心のユニバーサル」の考え方から、重点目標③に「福祉教育、啓発、交流の推進」というのがある。家庭・学校・地域と一体となった福祉教育の機会をつくる、地域での交流・啓発の場を設けて住民の福祉の機会をつくるといった、心の分野を中心にしたものが、重要な施策となっている。

上石津の小学校の取り組みが報告されたが、地域福祉活動の中には、他のユニバーサルの行政施策・福祉教育的な要素があるので、私としては、このような「心のバリアフリーの推進」を指針（案）の中に入れていただくとありがたい。一つひとつの推進課題は、非常に大きいものなのでどれということ難しいが、分野を広げるということで非常に抽象的なものでも良い。具体的な事業を挙げるのなら、具体的には福祉教育の中で、子ども達に疑似体験などがある。高齢者や障がい者になった時、ハンディというものを、疑似体験を通じて学

ぶことが可能になってくる。学校の取り組みや市では、医療の取り組みも入れていただきたい。

浜松市は12町村が合併したので、旧浜松市については積極的に地域づくり・まちづくりを進めている、市民協働推進条例をつくっている、行政の窓口はしっかりしている。ユニバーサルデザイン課もある。その他の合併地域については取り組みが遅れている状況である。

社会福祉協議会は5つの行政区域に分けて、5つのセンターでサービス拠点を持ち、サービスが行われている。大垣市はどのようにするのか。似通っているようで、やはり違いがあるので、推進指針（案）の中には、できれば教育的な推進があるべきではないか。学校教育の中での取り組み、社会教育の中での取り組み、福祉教育の中での取り組みという3つの分野でユニバーサルデザインの育成というものとまちづくりがどこかにあるといいなと思う。私どもの関わりのある3番目の「福祉教育、啓発・交流の促進」が大事ではないかと思った。

【鈴木座長】

非常に具体的で、かつ、大事なポイントだったと思う。その部分は、大橋委員も同じ観点でご指摘されていた。はっきりと打ち出すように考えたい。なるべく多く、いろいろな部分で含められるよう工夫したい。

【鈴木座長】

それでは、5ページの「思いやりのデザイン」のご指摘と、6・7ページの第2章「いろいろな分野で見られるユニバーサルデザイン」について、大垣市の施策以外に、前回もご指摘いただいた市民活動や民間事業所の事例も入れたいので行政施策と民間の事業の取り組みをうまく再構成し、ここで紹介できるようにしたい。車椅子の方の介助犬が認定になっているという事例が現実にあるので、介助犬への理解などを福祉教育に入れると良いなどご意見をいただいた。民間の事業所の事例や市民活動の事例としてここでふさわしいものがあればここでご紹介いただきたい。

8ページの第3章「大垣市が目指すユニバーサルデザインのまちづくり」でも様々なご指摘をいただいたが、改めて修正のご指摘があればお願いしたい。!

第4章は4つの分野での目標達成に向けて、それぞれの主体の役割だけではなく、総論の部分ということで、市民と行政の協働の部分もあるとのご指摘をいただいた。他に4つの分野の目標と役割でご意見はないか。!

【一柳委員】

駅前通りは、誘導ラインが引いてあっても、商品や看板を出す事例が見受けられる。せっかく役割を果たそうにも意識が付いていかない場合には、結果として死んでしまう。一人ひとりが自分自身のこととして、ユニバーサルデザインを考えるべきだ。自分の行動を含めて、意識の問題を何か表現できないものか。

あの状態を見ると、ここのまちはいったいどうなっているのということにもなりかねない。住んでいる人にとっても杖をついておられる方にもあの誘導ラインがあのままの状態であつたらおしまいである。せっかくユニバーサルデザインのまちづくりをやるというなら、まちづくりに少なくとも皆さんが自分自身のこととして考えて、行動できる、そこまでのレベルに引き上げないことには実現が難しくなる、施設だけつくることになりかねない。

【鈴木座長】

ユニバーサルデザインのまちづくりをこれから考え実践していくに当って、まだまだ市民意識というものが低いと言う現状について、把握・理解をしないとけない。

9ページの4つの市民意識のところ、現状はこういう理解までいっているという非常にポジティブな部分とまだまだ課題があるというネガティブなところを具体的に示すことも大事かもしれない。一度、検討してみたい。

8ページの「ユニバーサルデザインのまちづくり理念」の「住んでよし、訪ねてよし」は、ご指摘いただいたように、これは箕浦さんからご提案いただいたものであるが、こういう方向で示したい。大垣の場合は、ユニバーサルデザインのまちづくりについて、具体的にこういう風に取り組んでいきたいという表現である。

【箕浦委員】

まちづくりというのは、大垣らしい個性あるまちづくりが基本的に必要だということと、ハードのためにまちをつくっているのではなくて、住んでいる人、或いは訪ねてくる人が快適に過ごせるようなまちをつくることであると思う。そういう点で、「すべての人に優しい、心豊かなまち・大垣」というのは、ありがたい文章だと思う。

【辻本委員】

「住んでよし、訪ねてよし」よりも、「案内してよし」くらいはどうか。

【鈴木座長】

「訪ねてよし」と言った部分を、第2章の「いろいろな分野で見られるユニバーサルデザイン」で、市外から訪れる方々にも配慮した取り組みをしているという事例を出した方が良いというご指摘もあった。

大垣を訪れる人たちに対して分かりやすいデザインやサインといったものが十分にこの中では表現されていないというご指摘があつたので、その部分を入れることによって改善されると思われる。一方、「案内してよし」というご提案があつた。どうか。

【成瀬委員】

今ご指摘があつた「住んでよし、訪ねてよし」は大垣の夢でもあろうかとい

うことで、私は、この「訪ねてよし」の方が良いのではないかと思う。

ただし、長くてゴロが悪いので、「～住んでよし、訪ねてよしのまちづくりすべての人に優しい、心豊かなまち・大垣を目指して～」という方が聞き入れやすいと感じる。

【奥田委員】

「訪れる（たずねる）」より「訪れる（おとずれる）」の方が良いかと思う。

【箕浦委員】

大垣らしいものということで「住む」という点とそれに「訪ねる」という幅広い交流という言葉のとらえ方が正しいと思う。

観光で来ていただく方だけではなくて、人と交流のためにお越しいただくすべての方を包括するというので、「訪ねてよし」という言葉が使われていると思う。幅広くとらえてはどうか。

【鈴木座長】

幅広い市民を対象として、市民が共有できる表現であるということが大切だ。3つほど意見をいただいたので、全体のバランスを考えて、再度、10日に皆さんにご提案するというのでよろしいか。他にも、理念のところでもこういう表記が良いということであれば、具体的にご提案をいただきたい。

それでは、次に4つの分野で、現状認識から、これからの目標に向けての役割について皆さんのお考えをご紹介いただきたい。

【坂委員】

「市民の意識」になるのか、「情報内容や伝達方法」なるのか分からないが、現状の課題の中で、煩雑な看板などに対する意識が低い。目標に統一されたデザインにする努力が挙げられているが、市民の意識の低さが現状と課題に出てきていないような気がする。

【鈴木座長】

9ページの現状で、横文字などは高齢者に分かりにくいことや市民が利用する公共施設や民間施設の表示・案内が非常に分かりにくいことから、10ページの目標で、「デザインに統一性をもたせる」と挙げた。

「市民の意識」でも、「市民が利用する公共施設や民間施設」でも当てはまる。ご指摘のとおり、現状と課題に具体的に表記したほうが良いかもしれない。

【坂委員】

「市民の意識」にユニバーサルデザインに対する意識がないのではないかと思う。看板などが統一されていないと、まちが煩雑に見えたり、汚いまちに見える。自分だけが目立てば良いという感じになっている。他の都市の話を出してもいけないが、色に統一性がある。例えば、パリでは、真っ赤などの原色を

持って来ない。景観を考えたもの、そのために案内板も統一されて、きれいなものになると良い。

【松本委員】

おっしゃることは非常によく分かるが、日本人一般についていうと、法的規制が先になくなかなか言うことを聞かない場合が多い。商業的なレベルで、直接収入に関わるので、それを敢えてユニバーサルデザインだからと常識に訴えるのでは、そもそもこの指針自体に限界があるのではないか。規則もどこかで必要である。本来の市民の参画で歩道に自転車やものを置いてはいけないとか、自然に撤去されたりする感覚があれば、看板なども自然に抑える様になると思う。

【鈴木座長】

今の点は、現状についての認識と目指すべき方向性、目標設定をした上で、16・17ページの「まちづくりの進め方」だが、まちづくりの土台をユニバーサルデザインという観点から進めるための評価や基準、心温まるまちの計画・配慮、大垣らしい歴史風土・景観に配慮した市内のサインをつくっていくというような観点をうまく表現できたらと思う。規制的な形で表記した方が良いという意見と、ユニバーサルデザインデザイン賞を設けて、大垣にふさわしいユニバーサルデザイン運動を広げていけるように組み込めたらよい。同時に、ユニバーサルデザインを推進するためのまちづくり条例というものを検討すべきという指摘も入れることができるだろう。いずれにしてもそれらをどう中に入れるのか、具体的にここで検討したいと思う。

【早崎委員】

「4つの分野」の「市民の意識」に小学校の取り組みが書かれているが、そのあとの役割分担に結びついていない。入れる必要がある。

子ども達は教育分野で福祉や国際理解、環境理解についても非常に進んでいる。どういうわけか大人になっていく中で崩れていくことがある。子ども達が学んだことが、本当に地域でも関係機関でもそのようになっていくと良い。それが心のユニバーサルデザインである。思いやりや親切などの表現がされていると思うが、その子ども達の理解が役割分担として、どこかにつながっていないと第5章のまちづくりの進め方につながっていないような気がする。

【一柳委員】

何事もそうだが、会社も含めて、本当に重要なことは繰り返しを徹底しなければ、なかなか実施にいかない。そういう意味では、小学校6年生で、もう全部理解しているという単純なものではない。ユニバーサルデザインというものをどういう形で1人ひとりが理解できるようにしていくかということが大切ではないか。

【鈴木座長】

重要なところだ。ご指摘の通り、現状について、子ども達が学んでいるということと、今後学校を卒業した子ども達がそれをさらに深めて、心のユニバーサルデザイン或いは、まちの中でユニバーサルデザインを普及させていく一つの大きな力、主人公になるという導きになる部分が欠落している。また、それを推進していく体制についての言及も欠落している。この中で触れていけるようにしたい。

早崎委員から先ほど教育的な観点での推進方策を明記すべきだのご意見があったが、16ページで表現できるかと思った。他にはどうか。

【一柳委員】

行政組織、場合によっては市民組織も必要ではないか。1年間やったらそれをまた次の1年間を向こう3年間でやっていくなど指針の見直しが必要である。

常に見直し、継続的にチェーンローリングをしていくことが大切である。それに合わせていろんな組織を通じて行っていく。

【成瀬委員】

10ページの「目標」で「適当な日本語に置き換えたり、色の統一も検討します」になっているが、目標の中に「検討」という目標はおかしい。それよりも、「適当な日本語に置き換えたり、色の統一をする」ということが目標ではないか。検討することを目標にすると、やる気がないのかという気がする。ここで直さないと、次の具体的な話に入った時にまた同じようになる。少し言葉を変えていく方が良い。他にも、「市民が使用する製品やもの」では、目標に「使い方を優しい図解で示す必要がある」となっているが、「図解で示す」だけの方が良いのではないか。

「事業所の役割」というところだが、この事業所というのは、どこの事業所ということではなくて全体の事業所という考え方なのかどうか。

【鈴木座長】

事業所と言えば、民間の事業所を示している。

【成瀬委員】

4-2の「事業所の役割」の中に、一般の事業者、スーパーや百貨店、不特定多数の方が利用される場所は目安箱が必要かと感じているが、すべての事業所には設置できない。

最後に4-3の「事業所の役割」の中に、ユニバーサルデザインの展示会や見本市を「西濃まるごとバザール」などのイベントで開催するとなっているが、具体的なイベント名はいつまでもあるかどうかかわからず、名称も変わる可能性があるので、「大規模なイベント」ではどうかという気がする。

【鈴木座長】

このところは、ご指摘の通り、何とでもとれるような表現だとか、一步具体的な形にしてあるのは、委員の皆様から寄せられた意見やこのように表現したほうが良いというご指摘を踏まえて、敢えてそれを生かした形にしたからである。

12ページの「事業所の役割」については一般の民間事業所という意識で書いているが、13ページは「市民が利用する公共施設や民間施設」は、ご指摘の通り、大型の商業施設ということが多いと思うので、ここは大型の商業施設を意識して書いた。その他にどうでしょうか。

【箕浦委員】

大垣は地盤が随分軟らかいようで、大地震などがくるとかなり災害の程度が高くなる可能性があると思う。災害が起きた時には、その地域についてはここが避難場所だと声をあげていただければ、それが5人、10人と伝わって対応できる。また、お金のかかる問題ではないので、案内板などにQRコードもいれていただくとおもしろいとお提案したい。

【坂委員】

避難場所までのサインが少ない。大垣公園が避難場所指定になっているにもかかわらず、案内があるのは、新大橋の1か所だけである。どうしても伝えなければならぬものについてはもっと理解されやすい心づかいをいただきたいし、そういったものが必要である。

【鈴木座長】

15ページで若干触れてはいるが、「情報内容と伝達方法」では今のQRコードについて、もう少し詳しく触れたほうが良いというご意見だ。それでは他のご意見はどうでしょうか。

【吉田委員】

高齢者や障がい者などの弱者の方々はなかなか声をあげられないので、15ページの「行政の役割」の中で、市民や事業所などからの提案や要望を受け入れるというところやすい上げるという形になると良い。駅前のぶらつき街の細かいタイルは、杖がひっかかって折れることがあるのに、できあがってから意見をと言われても対応できない。行政の方から踏み込んで弱者の意見をすいあげる形にできれば良い。

【鈴木座長】

15ページの「情報内容と伝達方法」のところで、市民からの要望・提案を施策に積極的に反映し、かつ評価を受ける仕組みを設けるなど、そういう主旨である。また、反映し、どう生かされて、それがどう良いのか悪いのか。市民と行政がキャッチボールを繰り返していかなければユニバーサルデザインは進んでいかないと、より良いものが生まれにくいことがあるので、そういう観点か

らのご意見だった。

【坂委員】

行政に陳情したりお願いしたりするばかりではなくて、市民で考えていくことが大事である。

この第4章に関しては、市民・事業所・行政、個々の役割があるが、第5章では協働について書いてあった。第4章でも、協働という項目をもう少し整理すれば、随分分かりやすく、見やすくなるのではないかと思う。

また、指針（案）については一生懸命議論しているので、見直しと言われると抵抗を感じる。振り返るといふ優しい言葉、それこそ、ユニバーサルデザインではないかと思う。

【鈴木座長】

振り返りというのは評価そのものではないかなと思う。振り返った結果としてより良いものを仕上げていくということだから見直しという言葉を使った。

ユニバーサルデザインのまちづくりを推進する仕組みとしての協働関係というのは、5章でもぜひ触れておきたい。指針を推進していく、進めていくための方策として、協働の部分を入れることは大事だと思う。4章の役割分担で主体ごとの役割と同時に、双方が協力して新たにつくりあげるといふ部分がこれから必要になるので、その部分を追求することは必ずやりたいと思う。

他にもご指摘があればお願いしたい。

【坂委員】

第5章の「指針の推進」で、「ユニバーサルデザイン賞（仮称）を設けの優れた取り組みや製品を表現し、PRする」とあるが、施設も入れた方がよい。

【早崎委員】

5-2で（仮称）ユニバーサルデザイン推進協議会の設置とあるが、一般的に事務局が必要となる。

現在は、政策調整課が担っているが、今後も窓口を置いていただくということではよいか。

【広瀬政策調整課長】

ずっと政策調整課で実施できるとは限らない。

【早崎委員】

いずれにしても行政機構の中に、係や課を設けていただけるといふことでよいか。

【広瀬政策調整課長】

行政が事務局として、担っていく。

【鈴木座長】

むしろもう少し踏み込んで、先程の浜松の事例のようにユニバーサルデザイン課を新たに設ける方が良いというご指摘をいただけたらありがたい。

【早崎委員】

浜松の大きな政令市にユニバーサルデザイン課の職員は6人だ。特に大きなイベントに取り組むわけではないが、「心のユニバーサルデザインふれあい事業」という催しがあり、歴史が長いので、目標設定も内容も非常に市民に分かりやすい。今後、ユニバーサルデザインの関係の事業にも踏み込んでいくことになると思うが、初めから課を設置などと欲張ると大垣らしいものがなくなってしまいかもしれない。

しかし、どこか気楽に尋ねられるような窓口があったほうが良い。商工観光課か、福祉にするのか、生活安全課にするのか、まちづくり推進課にするのか。私の考え方は言っても良いか。

【鈴木座長】

どうぞ。

【早崎委員】

私としては、できれば、せっかく「かがやきライフ推進部」ができていますので、そちらが具体的になった方が市民感覚としては迷わないと思う。ただ、市民の立場と事業所の立場とがあり、事業所というと、どこまでも事業所の役割というものがある。それは皆さん方でご協議いただきたい。

【鈴木座長】

各課に横断して具体的に取組まなければいけないことなので、市の機関すべてにわたるということで本庁以外に教育委員会なども含めての仕事になっていくと思う。市の機関として、どこが受け止めていくべきか事務局とも協議して、指針（案）として出せるようであれば示していきたい。市の機関としてやることは絶対必要である。

【一柳委員】

16ページのかっこ4の表現についてだが、市民・事業所と行政のコラボレーションという言い方なのか。今までは市民、事業所、行政の3つが並列扱いになっていた。

【鈴木座長】

三者並列である。

【渋谷委員】

世代間のコラボレーションがあっても良い。例えば、お年寄りと子ども達という世代間を含めたユニバーサルデザインの推進施策などはどうか。市民・事業所・行政という横並びと共に、縦の系列も出せないものか。そういうものがあると継続性が保てると思う。

【鈴木座長】

教育的な観点のところで具体的な事例を出していくということにしたい。まだご意見いただけていない方で渋谷さんいかがでしょうか。

【澁谷委員】

小学校で子ども達は、現実には学校の中では勉強している。しかし、社会に出るとギャップがあるのではないかと感じる。つながっていかない。まずは大人の私たちが意識を変えていくことが重要なことだと感じる。

【鈴木座長】

これまでご指摘いただいたことと重なる大事な視点なので、意識的に示していきたいと思う。皆さんから寄せていただいた意見は、間違いのないようにやりたいので、「ユニバーサルデザインの推進指針（案）」の中に、もし、書き込んでおいていただいたものがあるならば、今日、事務局に出していただくと非常に助かる。それから、我々の方で10日の次回研究会に向けて資料づくりをしたい。また、写真などのデータも大垣市に沿ったものが一番良いが、市外での優れた事例紹介があれば、出してもらいたい。

28日までに追加意見があれば、ぜひ事務局まで提出いただきたい。

3. その他

【鈴木座長】

それでは、「3. その他」に移ります。何かご意見があれば、お聞きしたいと思います。

《意見なし》

【鈴木座長】

最後に確認ですが、今後の作業日程ですが、1月10日（木）に第6回目の研究会を行います。

そこで、今回直してきた指針（案）を再度検討していただき、さらに直すべきところについてご意見いただいた上で、私と事務局にお任せいただき、2月15日（金）に市長への提言として持っていきたいと思います。それでは事務局に進行をお返しします。

【広瀬政策調整課長】

長時間にわたりご議論いただき、誠にありがとうございました。次回の研究会は来年1月10日（木）午後1時30分から3時30分までの2時間を予定しています。会場は同じです。

年始でお忙しい時期と思いますが、ご出席を賜りますようよろしくご出席賜ります。ご意見がありましたら1月4日（金）までにお願ひします。それでは、これもちまして研究会を終わります。ありがとうございました。

-----了-----